

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
支援学校	和歌山県立和歌山さくら支援学校	三反田 和人
学校所在地		
〒640 - 0112 和歌山県和歌山市西庄1148-1 tel 073(453)0303 fax 073(453)0789 e-mail postmaster@sakura-sh.wakayama-c.ed.jp		
担当者名		役職名・担当教科
志岐 和紀		教諭 ・ 社会
<p>〔学校の概要〕 和歌山さくら支援学校は、本県では初めて特別支援学校の生徒と高等学校の生徒が隣接する校舎で学ぶ学校であり「交流」から「合同の学び」に、そして互いに「連携」を深めて共に生きる「共生」の具現を考えている。また昨年度、小学部・中学部・高等部及び肢体部門の全学部が開設された学校である。 学校のシンボルである校旗には、校名の「さくら」にちなんだ五枚の花びらが描かれており、学校目標である「心と体の成長」、「主体性」、「自立」、「発信」、「社会参加」の意味が込められており、花びらに輝く三つの星は、小学部、中学部と高等部を表しており、三つの学部の一人ひとりがキラキラと輝く人になってほしいと思いが込められ特色ある教育活動を行っている学校である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1年生 25名	3名 職員 10名	壇上伽藍
実践研究テーマ		
ふるさと和歌山を愛し、誇りに思い、将来、自信を持って社会生活を送ることができる人材育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間 「和歌山の世界遺産」	和歌山の世界遺産を知ろう	
<p>〔キーワード〕 世界遺産学習 郷土 和歌山 自立学習 社会参加</p>		
<p>〔単元目標〕 (1) 世界遺産の学習・体験を通し、歴史や環境等に興味関心を持つ。 (2) 実際に和歌山の世界遺産に触れ、和歌山県世界遺産センターの入門講座を受講したりすることで、世界遺産について実感することができる。 (3) 世界遺産に触れ、世界遺産を大切にしていこうとする郷土愛を深めることができる。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 16 時間 （「 ふるさと和歌山 」 7 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター…… 世界遺産入門 次世代育成事業（現地学習等） 和歌山県世界遺産マスター</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産とは何かを学習する。 日本に登録されている世界遺産を知る。 世界に登録されている世界遺産を知る。 	日本の世界遺産を知り，世界遺産について画像やインターネットで検索し調べること興味をもてるようにする。	(感じる力) ワークシート (実現する力) ワークシート
2	「紀伊山地の霊場と参詣道」とは何かを学習する。	熊野古道や熊野について学習し，本地域の世界遺産について興味をもてるようにする。	(感じる力) ワークシート (実現する力) ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産についての高野山で説明を聞く。 世界遺産入門 次世代育成事業において世界遺産の講義を受け、実際に建造物等を見ながら説明を受け見聞する。 	実際に郷土和歌山の世界遺産において建造物や自然を見るようにする。世界遺産である高野山の場で説明を聞く。	発言・行動観察
4			
5			
〔単元学習の成果と課題〕 (成果) <ul style="list-style-type: none"> 事前学習の段階から世界遺産に興味をもち、学習・体験を通して、歴史や自然により興味関心を深めることができた。 郷土和歌山に世界遺産があることを知り、実際に高野山へ行くことで、世界遺産に触れ実感することができた。 (課題) <ul style="list-style-type: none"> 郷土の世界遺産を知り、興味関心をもって、高野山へ行き、実際に雰囲気や建造物を見ながら説明を聞くことで、興味関心を深めることができた。更に学習したことに対して自分の意見を持ち、世界遺産を大切にしようとする郷土愛を深め、それを表現ができるような能力等をつけていくことが必要である。 			
〔世界遺産学習の効果〕 <ul style="list-style-type: none"> 郷土和歌山に世界遺産があることを知り、実際に見聞することで、深く興味関心をもつことができた。 社会参加や自立活動の部分においては、寺社・仏閣や公共交通におけるマナーを学習し、マナーを守り、見聞することができた。 保全活動に関心をもち、環境への意識が高まった。 世界遺産を意識して、郷土を感じながら高野山へ行くことができた。 			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習を進めていく上で、実際に世界遺産に触れ、その場所で説明を受けることが大切である。 本地域における世界遺産の範囲は広いため、焦点を絞り、資料を厳選する工夫が必要である。 			

様式 2

平成 27 年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

- ・多くの高野山で、いろいろ説明していただいた上で、多くの世界遺産を見ることができ、その中に「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる高野山も含まれていることを知ることができました。
- ・和歌山の世界遺産の正式名称は、「紀伊山地の霊場と参詣道」というのだということを初めて知ることができました。
- ・自分たちが住んでいる和歌山県に世界遺産があることを知るとともに実際に見聞や活動の経験を経る中で、世界遺産を身近なものに感じることができました。
- ・壇上伽藍で、角経蔵のお堂を押して、みんなでまわし、その大変さともにお経を読んだのと同じ効果があることを知り驚きました。
- ・自分たちが住んでいる和歌山県に世界遺産があることを知り、世界遺産が身近なものに感じることができました。
- ・雨だったので、金剛峯寺は見ることができませんでしたが、霊寶館において、普段ではあまりみることができない孔雀妙王を見ることができました。

